

御担当医先生侍史

独立行政法人海技教育機構
企画調整部企画課

帆船「海王丸」における体験航海について（説明資料）

海技教育機構は、練習船（総トン数 2,000 トン～6,000 トン、全長 100m 前後）を運航し、全国の商船系大学、商船系高等専門学校、海技大学校、海上技術短期大学校及び海上技術学校の学生・生徒（以下、実習生という）を受け入れて、乗船実習（6 ヶ月～12 ヶ月）を行い、船舶職員（航海士または機関士）になるための乗船履歴を付与しています。

乗船実習が、洋上で行われる特殊性を踏まえると、海洋研修生の安全確保が最優先であり、今回貴院にて受診する当該研修生が各種体験を実施するにあたり、健康上支障がないかどうか、先生のご診断を賜りたいと存じます。



【練習帆船 海王丸】

全 長 : 110.09m
総トン数 : 2556ton
幅 : 13.80m
深 さ : 10.72m
最大速力 : 14.09kn
定 員 : 199 名

【練習船実習訓練内容】

練習船での体験航海は、帆船海王丸に海洋研修生として乗船し、遠洋航海を体験するプログラムです。船内見学、出入港作業、船内諸作業などの体験を研修内容に多く組み込んでおり、船内生活を通してひととおりの海事知識を習得することができます。

生活する部屋の人数は、1 室（約 10m²）5 人～10 人です。練習船の実習生収容人数は 120 名、乗組員 60 名を含めると合計 180 名で、海洋研修生は実習生と生活を共にいたします。この船内という限られた空間の中での集団生活を体験することで、船舶職員として求められるリーダーシップ、協調性、規律遵守等を体得します。

練習船における日課（1日の生活パターン）は、原則として午前6時30分起床、午後10時30分消灯となっており、午前及び午後は、それぞれ3時間の講義又は実技実習を体験します。航行中は、1日4時間の航海当直実習（数日間にわたり24時間を3交代で船橋又は機関室において4時間立直（常時立って当直を行う）を見学します。

船舶の操縦（運転）や現場の機械を操縦（運転）する体験を実施します。実技体験や専用工具等を用いた整備作業では、知識だけではなく体力も要することから朝昼の体操等を通し、常に健康管理に努めるよう指導します。

【海洋研修生体験航海の留意事項】

- ① 船舶は、洋上を移動することから、常に動揺があります。
- ② 船体構造・設備においては、陸上施設に比較して階段は急勾配になっており、さらに船体動揺があるため、両手で支える必要が頻繁にあります。また、船内への出入口にはコーミング（高さ300mm程度）と呼ぶ海水流入防止のための敷居が在り、これを跨いで船内・船外への出入りを行います。
- ③ 不安定な場所における作業や大型機械の取扱い等の体験が行われます。
- ④ 船内では継続した治療や高度な専門知識が必要とされる治療（医療行為）を行うことができません。
- ⑤ 過去、服薬の継続が必要であった者が、船酔い嘔吐により薬の効果を得ることが出来ず、症状が悪化した例がございます。

【医療事情】

本船には船医・看護師が乗り込み、応急処置の対応は可能です。重症患者が発生した場合は、陸上の医療機関へ搬送するなどして支援を求めます。

ただし、船舶は気象・海象の条件を受けやすく、天候が悪化した場合にはすぐに入港できないため、患者の搬送を直ちに行うことができず、適切な治療を受けるまでに数日間要する可能性があります。特に遠洋航海中は陸上医療機関受診に日にちを要します。このため、陸上からの無線等による医療支援を受けることは可能ですが、患者の対応は基本的に船医・看護師が行わなくてはなりません。

ご不明な点は以下までお問い合わせ下さい。

独立行政法人海技教育機構

企画調整部企画課

TEL:045-211-7316

FAX:045-211-7317